

施策マネジメントシート

基本施策名	魅力あるまちづくりの推進	施策統括課	国立駅周辺整備課	氏名	関野 達也	
政策名	都市基盤	主な関係課	まちの振興課、環境政策課、都市計画課、工事担当、道路交通課、富士見台地域まちづくり担当、南部地域まちづくり課			

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ・市民 ・事業者 ・市内全域
--

施策の目的 それぞれの地域の特性や魅力を活かした都市機能の整備が行われ、恵まれた自然と歴史ある文化遺産と調和しつつ、利便性や快適性、防災面からみた安全性が兼ね備えたまちづくりを進めます。
--

対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
ア 人口	人	
イ 事業者数	事業所	
ウ 市域面積	km	
エ		

成果指標 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない		
名称 (展開方向ごとに記載)	単位	
1		
ア 国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%	
イ 旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人	
2		
ア 富士見台地域の居住人口	人	
イ		
3		
ア 国立市南部地域整備基本計画における南部市街地整備の進捗率	%	
イ 狭あい道路拡幅整備の申請件数	件	
ウ 南部地域における町名地番整備率	%	
エ 南部地域が魅力的だと思ふ市民の割合	%	
4		
ア JR南武線連続立体交差事業に伴う市街地整備の事業化進捗率	%	
イ		

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1	回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり	国立駅南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。 市民に必要な機能を有する公共施設整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。 再築された旧国立駅舎をまちの魅力発信の拠点として活用し、回遊性を高め、まちの活性化につながるよう施設運営を行います。
2	多世代が安心して暮らせる活力に満ちた富士見台地域のまちづくり	富士見台地域を、少子高齢化に対応した、だれもが暮らしやすい理想的な住空間とし、多世代が安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めます。
3	歴史・文化・自然環境と調和した南部地域の基盤整備	市街地整備の事業化に向けた調査・検討を行うとともに、区画道路における歩行者・自転車通行の安全性確保や消火活動の円滑化などを旨として、既存道路により狭あい道路を解消します。 また、南部地域の特徴である歴史・文化・自然環境を保全することで、魅力あるまちづくりを推進します。
4	JR南武線の連続立体交差と連動したまちづくり	踏切渋滞や踏切事故、鉄道による地域の分断などを解消し、人にやさしいまちづくりを実現するため、東京都、隣接市、鉄道事業者等の関係者と連携して、JR南武線連続立体交差事業による鉄道と道路との立体交差化を促進します。 JR南武線と道路との立体交差化等により踏切事故や踏切遮断による交通渋滞を解消し、より安全で快適な歩行空間を整備します。 谷保駅及び矢川駅の周辺地域は、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を検討するとともに、谷保駅周辺では踏切道の拡幅等による歩行・交通環境の整備など、矢川駅周辺ではJR南武線と道路との立体交差化等に伴う安全で快適な歩行・交通環境の整備などを進めます。 JR南武線連続立体交差事業にあわせて、都市計画道路3・3・15号線、3・4・5号線及び3・4・14号線の整備を推進します。 また、矢川上土地区画整理事業の見直しに伴い、区画整理区域に計画区域が含まれている矢川上公園の拡充整備を進めます。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度	目標達成度														
対象指標	ア	人	見込み値										75,054	75,466	75,932	75,984	76,282	76,098	76,106	76,140	75,925	達成・未達成	前年度比較				
			実績値	75,054	75,466	75,932	75,984	76,282	76,098	76,106	76,140	75,925															
	イ	事業所	見込み値											2,640	2,804	2,657	2,657	2,657									
			実績値	2,640	2,804	2,657	2,657	2,657																			
ウ	km	見込み値											8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15						
		実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15																				
エ		見込み値																									
		実績値																									
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値									58.4	62.3	73.6	76.1	78.9	79.8	82.9	86.5	100	達成	向上				
				目標値	58.4	62.3	73.6	76.1	78.9	79.8	82.9	86.5												100			
				実績値	58.4	62.3	73.6	76.1	78.9																		
		基本計画における指標の説明又は出典元				「国立駅周辺まちづくり基本計画」でまとめた事業の事業費ベースの進捗率を基に設定しました。																					
		イ	人	成り行き値											0	300	500	750	100,000	100,000	100,000			100,000	100,000		
				目標値	0	300	500	750	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000														
	実績値				373	361	351	378,456																			
	基本計画における指標の説明又は出典元				国立駅の乗降客数を考慮して設定しました。																						
	展開方向2	ア	人	成り行き値	16,983	16,781	16,565	17,615	17,501	17,358	17,240	17,110	17,000	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	18,000	18,000	18,000	18,000	未達成	維持			
				目標値	17,200	17,200	17,200	17,200	17,200	18,000	18,000	18,000	18,000														
				実績値	17,427	17,730	17,742	17,537	17,636	17,699																	
		基本計画における指標の説明又は出典元				暮らしの魅力を高めることにより、現在の人口を増やすことを目標としました。																					
		イ		成り行き値																							
				目標値																							
	実績値																										
	基本計画における指標の説明又は出典元																										
	展開方向3	ア	%	成り行き値	71.6	76.4	81.3	86.1	88.2	90.4	92.5	94.6	100.0	66.7	77.1	85.7	85.9	85.9	85.9	85.9	85.9	85.9	85.9	未達成	向上		
				目標値	71.6	76.4	81.3	86.1	88.2	90.4	92.5	94.6	100.0														
				実績値	66.7	77.1	85.7	85.9	85.9																		
		基本計画における指標の説明又は出典元				平成26年策定した国立市南部地域整備基本計画における市街地整備計画の完了を目指し、目標値を100%としました。																					
		イ	件	成り行き値													2	6	19	6	10	14	18			22	38
				目標値																							
	実績値																										
	基本計画における指標の説明又は出典元				平成29年度に策定した南部地域狭あい道路整備方針に基づき、年4件の対象路線の整備を目標としました。																						
展開方向3	ウ	%	成り行き値	48.8	53.1	57.3	62.5	66.4	66.4	70.0	70.0	75.2	49.1	54.1	59.3	62.5	62.5	62.5	62.5	62.5	62.5	62.5	未達成	向上			
			目標値	48.8	53.1	57.3	62.5	66.4	66.4	70.0	70.0	75.2															
			実績値	49.1	54.1	59.3	62.5	62.5																			
	基本計画における指標の説明又は出典元				平成26年に策定した国立市南部地域整備基本計画における町名地番整理事業を推進していくことを目標としました。																						
	エ	%	成り行き値											46.0	49.3	47.4	49.4	51.4	53.4	55.4	63.4	未達成			向上		
			目標値																								
実績値			42.8	41.0	45.4	40.2	44.8																				
基本計画における指標の説明又は出典元				国立市南部地域整備基本計画で掲げる南部地域の将来像の実現を目指し、年2ポイントの上昇を目標としました。																							
展開方向3	ア	%	成り行き値													0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	81.5		達成	向上			
			目標値																								
			実績値																								
	基本計画における指標の説明又は出典元				JR南武線連続立体交差事業に運動した市街地整備の事業化を目標としました。																						
	イ		成り行き値																								
			目標値																								
実績値																											
基本計画における指標の説明又は出典元																											
事務事業数		本数																									
施策コスト	財源内訳	国庫支出金	千円																								
		都道府県支出金	千円																								
		地方債	千円																								
		その他	千円																								
		一般財源	千円																								
	事業費計(A)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	人件費	延べ業務時間	時間																								
		人件費計(B)	千円																								
		トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)
B:目標をおおむね達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)
B:成果がどちらかと言えば向上した

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

【展開方向1】
前年度と同様、個別事業の整備が進んでいる。一方で、状況の変化により、さらなる協議検討が必要な事業も生じている。

【展開方向2】
富士見台地域の人口及び世帯は、各地区共に微増している。要因として、近年、集合住宅の建設が見られること、さらには都営矢川北アパートの建替え後の戻り入居も進んでいることが考えられる。

【展開方向3】
狭あい道路整備については、順調に整備が進んでいる。
町名地番整理については、コロナ感染拡大の影響により2年度に予定していた谷保4丁目の実施を延期した。

【展開方向4】
南武線連立事業に伴う市街地整備については、準備段階の取組を計画的に進めている。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

【国立駅周辺地域】

- ・平成25(2013)年度にJR中央線連続立体交差事業が完了し、国立駅周辺整備事業の着手が可能となった。
- ・平成27(2015)年4月に、国に都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金対象事業として旧国立駅舎再築事業等3事業が採択された。
- ・国立駅周辺の道路整備事業に関しては、東京都の市町村土木費補助の支援を受けて行うこととなった。
- ・国立駅周辺の交通計画は、交通管理者と段階を分けて協議を行い、平成27(2015)年4月に北口駅前広場、北1号線、西1号線、西1条線(延伸部含む)の、平成28(2016)年1月に南口駅前広場、東1号線の協議を終了している。
- ・平成30(2018)年5月に国立駅前くになち・こくぶんじ市民プラザを開設し、令和2(2020)年2月に旧国立駅舎が再築され、4月に開業した。
- ・平成31(2019)年3月に国立駅北口駅前広場が完成し、令和2(2020)年3月に都市計画道路3・4・10号線(南工区)、西1号線延伸部の道路築造工事が完了し、供用開始した。

【富士見台地域】

- ・1965(昭和40)年に完成した、国立富士見台団地は、創設から50年が経過し、日本各地にある、多くの団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じている。
- ・東京都により、矢川駅の近くにある都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでいる。居住者の高齢化率は高く、建て替え後の団地で安心して暮らすことができる環境の整備をどのようにするのが問われている。
- ・平成29(2017)年度に策定した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現を目指し、平成30年度から3か年計画で、「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」の検討を行った。令和3年3月に、市民協議会より構想案が市長に提出され、同年5月、市民と行政の協働まちづくりの手引書として策定した。
- ・都営矢川北アパートの建て替えに伴い生じる空地を東京都から借り受け、保育園及び、児童館等を含む、多世代が利用できる複合施設を整備するために、東京都との協議が進められてきた。
- ・令和2(2020)年、東京都と国立市の間で、土地利用の協定書が結ばれた。「くになち子どもの夢・未来事業団」が運営する矢川保育園は、土地の賃貸借契約も整い、令和3(2021)年4月に開設した。複合公共施設(仮称 矢川プラス)については、令和2年度に実施設計を終え、令和3年7月より工事に入る。令和5(2023)年4月の開設を予定している。

【南部地域】

- ・平成26年度に策定した国立市南部地域整備基本計画は、計画期間を令和5年度までの10年間としており、平成30年度に5年が経過したことから、庁内関係課による各事業の進捗状況及び見直し項目の調査、庁内連絡会における検討、市民意見の募集、市民意見交換会などを実施し、計画の中間見直しを行った。
- ・南部地域における市街地整備計画の対象地域では、年々住宅が増加していることから、面的整備に伴う地域住民の合意形成等がより困難な状況になっている。
- ・町名地番整理事業は、26年度以降計画的に実施しており、新地番に整理された地域が着実に増えている。
- ・道路整備事業では、29年度に南部地域における幅員4m未満の狭あい道路の整備を進めるための新たな制度を設け、30年度から運用している。

【JR南武線連続立体交差事業】

- ・JR南武線連続立体交差事業については、事業主体である東京都が平成30年4月に国より新規着工準備採択を受け、現在、都において鉄道立体化の構造形式や施工方法、交差する都市計画道路の構造等の検討を進めている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられている

【国立駅周辺地域】

- ・国立駅周辺整備事業に関しては、各事業に対し、様々な意見がある。

【富士見台地域】

- ・国立富士見台団地の住民、UR都市機構、それぞれが考える今後の団地のあり方には違いがある。
- ・建替が行われても、都営矢川北アパートの住民が安心して暮らせるよう、求める声がある。
- ・矢川プラスについては、日常的に子どもから高齢者まで多世代が過ごせる居場所づくりの観点から、市民より様々な意見と期待が寄せられている。

【南部地域】

- ・南部地域の優先整備路線や狭あい道路の整備、甲州街道の歩道拡幅、町名地番の整理、南武線連続立体交差事業等に関する要望がある。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

【国立駅周辺地域】

- ・JR中央線の他駅(他自治体)が大型開発を進める一方、国立駅周辺については、大正末期に民間会社により開発された歴史、景観及び文化などを大切にしながらまちづくりを進めている。

【富士見台地域】

- ・富士見台地域のまちづくりは、市民・行政・専門家が協働で進めてきた。市民の生活実感の視点を中心に、行政施策の視点、専門的な視点(分析・評価)を加える進め方は、他市では殆ど見られない。

【南部地域】

- ・南武線連続立体交差事業に伴い、市では鉄道が立体化された後のまちづくりの方針を検討しており、同じ沿線市である立川市においても本市と同様の目的、スケジュールによりまちづくりの構想を検討している。

(4) 施策の具体的な取組状況

2年度の取組状況	3年度の取組予定
<p>・都市計画道路3・4・10号線(南工区)の道路築造工事を行なった。</p> <p>・国立駅周辺道路等整備事業の内、西第1条線延伸部の道路築造工事を行なった。</p> <p>・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用した。</p> <p>・旧国立駅舎の将来的な管理運営方法について研究を進めた。</p> <p>・旧国立駅舎運営連絡会で旧国立駅舎の管理運営・活用とともに旧国立駅舎周辺のまちの姿について議論した。</p> <p>・旧国立駅舎の隣接地権者と用地交換の協議を重ね、用地交換における合意書を締結した。</p> <p>・住民主体の富士見台地域まちづくり協議会を中心に、「国上市富士見台地域重点まちづくり構想」を作成した。</p> <p>・矢川プラスの実施設計を完成させ、次年度の建設工事に向けて進めていく。令和5(2023)年4月の開設に向けて管理運営面の検討を進めていく。</p> <p>・引き続き東京都による矢川北都営アパートの建替事業を促進する。</p> <p>・狭あい道路の整備方針に基づき、狭あい道路の整備を実施した。</p> <p>・南武線連続立体交差事業の今後の進展に伴い、矢川上土地区画整理事業の見直しに向けた調査・検討、南武線沿線まちづくりの検討を行った。</p>	<p>・国立駅周辺道路等整備事業の内、北第1号線の道路築造工事及び東第1号線の電線共同溝整備事業を行う。</p> <p>・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。</p> <p>・旧国立駅舎の指定管理者制度への移行に向け、具体的な検討を進める。</p> <p>・旧国立駅舎運営連絡会で旧国立駅舎の管理運営・活用とともに旧国立駅舎周辺のまちの姿について議論する。</p> <p>・東日本旅客鉄道(株)との用地交換後に取得する旧国立駅舎東西用地や円形公園がどのような駅前広場空間となると魅力的か検討するとともに、提案事業者募集の準備を進める。</p> <p>・用地交換後に東日本旅客鉄道(株)が開発する建物に市が整備を予定している子育て支援施設について、整備方針案を作成し、設計に着手できるよう関係者との協議を進める。</p> <p>・令和2年度に作成した重点まちづくり構想を、市民と行政の協働まちづくりの手引書として策定し、構想に示した、重点プロジェクトを推進する。</p> <p>・仮称矢川プラスの建設工事を着工し、子ども家庭部と連携して、管理運営について準備を進める。</p> <p>・狭あい道路の整備方針に基づき、狭あい道路の整備を進める。</p> <p>・矢川上土地区画整理事業の見直しに向けた調査・検討、南武線沿線まちづくり方針の検討を進める。</p>

6 2年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載
 総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

・国立駅周辺地域においては、旧国立駅舎が開業し、延べ約35万人の方が来館した。コロナ禍においても様々なジャンルのイベントを開催するとともに、市内の情報をデジタルサイネージやTwitterなどで広く周知することにより、まちの魅力発信拠点として活用した。旧国立駅舎の隣接地権者である東日本旅客鉄道(株)と用地交換の協議を進め、用地交換の合意書を締結した。
 ・富士見台地域においては、令和2(2020)年度までの3か年計画で「富士見台地域重点まちづくり構想」を作成するため、8名の公募市民委員を含む「国立市富士見台地域まちづくり協議会」が中心となり、検討を進めた。コロナ禍の影響により、市民ワークショップは開催できなかったが、インターネットアンケートの実施や、これまでの市民意見の精査を行い、令和3年3月に、構想案を市長に提出した。
 ・矢川公共用地の活用に向けて、東京都とも協議しながら、矢川プラス施設整備の実施設設計をまとめた。
 ・市街地整備事業の検討、狭あい道路の整備等が進捗している。

○改善余地のある事項・課題等

・国立駅周辺のまちづくりにおいて、東日本旅客鉄道(株)と用地交換した後の旧国立駅舎周辺の土地、子育て支援施設及び円形公園等の検討を進める必要がある。
 ・富士見台地域のまちづくりにおいては、住民主体のプロセス自体にも大きな意味があるため、重点まちづくり構想を策定したあとも、市民参加の場を継続して実施していく必要がある。
 ・延期した谷保4丁目の町名地番整理を実施する必要がある。

(2) 施策の2年度における総合評価

B	成果実績数値の評価(A~E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	---

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 4年度の取組方針

・国立駅周辺道路等整備事業を引き続き関係機関と協議を行い、順次調査、設計、工事を行っていく。
 ・旧国立駅舎を引き続き、適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。
 ・旧国立駅舎における指定管理者制度導入に向けて、諸手続きを進める。
 ・東日本旅客鉄道(株)との用地交換後に取得する旧国立駅舎東西用地や円形公園の提案事業者を募集する。
 ・用地交換後に東日本旅客鉄道(株)が開発する建物に市が整備を予定している子育て支援施設の設計に着手する。
 ・行政、住民、まちづくり関係者、専門機関が協働して「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」に示した、重点プロジェクトを推進する。
 ・(仮称)矢川プラスの令和4年10月末の施設完成に向けて、滞りなく建設工事を進める。また、市民の声を参考に施設の管理運営について検討を進める。
 ・町名地番整理事業、市道優先整備路線の整備を進めるとともに、日常生活に密着した区画道路では生活の利便性向上、歩行者・自転車通行の安全性確保、通行支障の改善、消火活動の円滑化、公共交通ルート拡充を目的に、新たな制度に基づく狭あい道路の解消に向けた取り組みを進める。
 ・南武線連続立体交差事業の進展に伴い、矢川上土地区画整理事業の見直しや矢川駅周辺まちづくりに取り組む。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・国立駅周辺地域を回遊性のある空間とするために、旧国立駅舎周辺の広場・円形公園整備、子育て支援施設整備など、それぞれの事業を適切に進めていく。
 ・国立駅周辺道路等整備事業については、引き続き関係機関と協議を行い、令和8年度末の完成を目指し、順次調査、設計、工事を行っていく。
 ・旧国立駅舎をまちの魅力発信拠点として活用する。
 ・「富士見台地域重点まちづくり構想」に基づき、行政を含めたまちづくり関係者が、富士見台地域まちづくりビジョンに描いたまちの将来像実現のための事業を進める。
 ・地域全体で子育てを応援し、多世代の居場所にもなる矢川プラス(矢川複合公共施設)の施設整備を進め、地域のにぎわい拠点とする。
 ・市街地整備、町名地番整理、狭あい道路の整備を推進する。
 ・南武線連続立体交差事業の進展に伴い、矢川上土地区画整理事業の見直しや矢川駅周辺まちづくりに取り組む。